

此るが如きことでは充分なる結果を期待することには極めて困難である。吾等の必要とする社会政策は現時の社会的苦難の實相と正確に把握し、其の因つて来る所の根源に溯つて匡救是正の抜本的方策を樹立することにならねばならぬ。――

思ふに社会政策の使命は社会各層の不調和と紛争とを調整して、調和あり統一ある健全なる社会状態を實現するに存すべしである。然らば時と處とに依つて社会政策の對象も亦其の方法も自ら異る所ありべきは當然の歸結であると言はねばならぬ。例へば大戦中我國に於ける産業經濟の急激なる發展に伴つて勞働運動の勃興して來つた時代に於て勞資間の大規模な紛争の續出せる際、勞資問題の解決の爲に社会政策の重點なる

かの觀を呈したことは、當時の社会状態に於て極めて自然のことであつた言ひ得るのであらう。併しなほ現下の事情に於ては、社会的不調和と紛争とは單に勞資の間存するに止らず、大工業と中小工業の間にも、其の他社会の各層に亘りて益々顯著ならんとするの傾向を示しつつある。従つて今日の社会政策は第一に普く是等の各分野に於ける社会的不調和を討究、調整するもの用意を缺いては其の使命を果し能はぬと言はねばならぬ。―― (註)

(註) 社会政策時報昭和七年十一月號一―三頁

以上の當事者の言葉に窺はれる如く、時勢の推移に伴つて本會の活動も自らその重點が異ならざるを得なかつた。例へば、調査活動に於ては從來は勞働争議とか勞働